

平成二十七年度 大学院人文科学府修士課程第2期入学試験問題

(日本語)

次の文章を読んで、後の問いに日本語で答えよ。

著作権保護のため、Web公開版では問題文を削除した。

(問題文は縦書き、三六字×四〇行)

(直塚玲子『欧米人が沈黙するとき』より)

- (1) 傍線部①～④の漢字を平仮名に直せ。(20点)
- (2) A～Dの「」の中の言葉のうち、文脈にふさわしいものを選び、数字で答えよ。(20点)
- (3) 傍線部(a)「肩すかし」、傍線部(d)「話しぶり」を用いて、それぞれ短文を作成せよ。(20点)
- (4) 傍線部(b)「道徳的価値判断を含む批判」とは具体的にはどのようなものか。本文に即して説明せよ。(10点)
- (5) 傍線部(c)、彼女(商社員の妻)に、あらかじめどのような理解があったらカルチャー・ショックはやわらげられたと考えられるか。本文に即して説明せよ。(10点)
- (6) 文中の A の中に入る、慣用的な挨拶言葉を記せ。なお、相手による表現の相違(待遇差)は考慮しなくてよい。(10点)
- (7) 傍線部(e)について、自身の経験も交えつつ自由に考えを述べよ。(10点)